

中村俊定文庫  
文庫 18  
866





芭蕉公羽百迴忌

芭蕉公羽百迴忌

紀塊亭遺稿

不忘花

芭蕉公羽百迴忌

其序

松風悟

分歲者當相尋之百回子。剛纔  
尔如所學風雅之片端了。凡惜  
者近歷遠報遺教之恩。吾近將  
謝餘深之德。尔者例尔出洛東  
之雙林而請五幾之凡客了。和  
七道之推實了。使筆裁錦以硯



今<sup>サ</sup>鳴<sup>ラ</sup>玉<sup>ヲ</sup>則<sup>カ</sup>流<sup>ス</sup>石<sup>ノ</sup>之<sup>モ</sup>爲<sup>モ</sup>磨<sup>サ</sup>披<sup>キ</sup>瓊<sup>ヲ</sup>率<sup>テ</sup>  
之<sup>ニ</sup>枝<sup>ヲ</sup>折<sup>ラ</sup>而<sup>テ</sup>下<sup>リ</sup>金<sup>ノ</sup>色<sup>ノ</sup>之<sup>ニ</sup>坐<sup>シ</sup>浦<sup>ノ</sup>園<sup>ヲ</sup>  
給<sup>ヒ</sup>笑<sup>フ</sup>尔<sup>ヲ</sup>我<sup>ノ</sup>者<sup>ヲ</sup>被<sup>レ</sup>繫<sup>カ</sup>仁<sup>ノ</sup>官<sup>ノ</sup>之<sup>ニ</sup>家<sup>ニ</sup>而<sup>テ</sup>  
暫<sup>シ</sup>止<sup>シ</sup>之<sup>ト</sup>上<sup>リ</sup>京<sup>ノ</sup>副<sup>ノ</sup>不<sup>レ</sup>念<sup>シ</sup>任<sup>シ</sup>于<sup>レ</sup>心<sup>ニ</sup>則<sup>シ</sup>  
責<sup>テ</sup>而<sup>テ</sup>看<sup>ル</sup>羅<sup>ノ</sup>南<sup>ノ</sup>紀<sup>ノ</sup>之<sup>ニ</sup>連<sup>ル</sup>愛<sup>ヲ</sup>而<sup>テ</sup>定<sup>メ</sup>之<sup>ト</sup>  
吹<sup>レ</sup>上<sup>リ</sup>高<sup>ノ</sup>松<sup>也</sup>了<sup>シ</sup>於<sup>テ</sup>上<sup>ニ</sup>古<sup>ノ</sup>精<sup>ノ</sup>舍<sup>ノ</sup>之<sup>ニ</sup>  
碑<sup>ノ</sup>前<sup>ニ</sup>而<sup>テ</sup>耶<sup>ノ</sup>特<sup>ニ</sup>作<sup>シ</sup>遠<sup>ノ</sup>見<sup>ノ</sup>之<sup>ニ</sup>追<sup>ヒ</sup>蒼<sup>ノ</sup>與<sup>ヲ</sup>  
而<sup>テ</sup>既<sup>ニ</sup>尔<sup>ニ</sup>此<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>月<sup>ノ</sup>十<sup>ノ</sup>二<sup>ノ</sup>日<sup>ノ</sup>迎<sup>ヒ</sup>本<sup>ノ</sup>山

之<sup>ニ</sup>素<sup>ノ</sup>道<sup>ヲ</sup>和<sup>シ</sup>尚<sup>シ</sup>兼<sup>シ</sup>雲<sup>ノ</sup>止<sup>シ</sup>禪<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>些<sup>ノ</sup>法<sup>ヲ</sup>  
養<sup>シ</sup>中<sup>ニ</sup>僧<sup>ヲ</sup>止<sup>シ</sup>手<sup>ヲ</sup>向<sup>テ</sup>漸<sup>々</sup>五<sup>十</sup>報<sup>ヲ</sup>仁<sup>ヲ</sup>  
畢<sup>シ</sup>矣<sup>ト</sup>在<sup>リ</sup>則<sup>シ</sup>思<sup>フ</sup>之<sup>ト</sup>此<sup>ノ</sup>五<sup>十</sup>報<sup>ヲ</sup>仁<sup>ヲ</sup>  
受<sup>ク</sup>者<sup>ノ</sup>龍<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>嘗<sup>テ</sup>而<sup>テ</sup>三<sup>十</sup>二<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>尔<sup>ヲ</sup>取<sup>リ</sup>  
越<sup>シ</sup>五<sup>十</sup>年<sup>ヲ</sup>忌<sup>ム</sup>而<sup>テ</sup>手<sup>ヲ</sup>向<sup>テ</sup>五<sup>十</sup>報<sup>ヲ</sup>仁<sup>ヲ</sup>  
給<sup>ヒ</sup>些<sup>ノ</sup>則<sup>シ</sup>今<sup>ニ</sup>特<sup>ニ</sup>百<sup>ノ</sup>日<sup>ニ</sup>尔<sup>ヲ</sup>百<sup>ノ</sup>報<sup>ヲ</sup>仁<sup>ヲ</sup>之<sup>ニ</sup>  
都<sup>ノ</sup>台<sup>ニ</sup>共<sup>ニ</sup>云<sup>フ</sup>吾<sup>ノ</sup>且<sup>ニ</sup>看<sup>ル</sup>信<sup>ノ</sup>龍<sup>ノ</sup>所<sup>ノ</sup>送<sup>リ</sup>年<sup>ヲ</sup>  
而<sup>テ</sup>花<sup>ノ</sup>干<sup>ニ</sup>鳥<sup>ノ</sup>干<sup>ニ</sup>不<sup>レ</sup>忘<sup>ル</sup>其<sup>ノ</sup>余<sup>ノ</sup>波<sup>ヲ</sup>了<sup>シ</sup>寸



志也。要乎此故尔卷頭之一表  
者。拾北方先師之遺詠。吾兼而  
周。靡不有淺止。古。老之蹤。靡慕  
敷去。尔潤色于集句之一。類止  
次于初櫻之一表。吾乞受。尊  
紫之花德。而大智方丈之偶。作  
擬。遊。汗。上。人。之。例。歷。徇。卷。末。尔  
花鳥之十句。表。靡。都。而。有。效。五

十句之昔。吾寫之。千化之。何矣  
花。有。者。所。謂。述。而。不。作。信。而。好  
古。了。此。集。之。趣。也。要乎。

寬政五年辛亥之月下院



انما هو في ذلك واطلاقها في كل وقت

مستطاب

التي هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

انما هو في ذلك واطلاقها في كل وقت

مستطاب

التي هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

بما هي في كل وقت مستطاب

انما هو في ذلك واطلاقها في كل وقت

مستطاب











新編西十一卷

花

和歌

陽子  
仁彦

花の白くは雪の如し

梅、桜、橘、松、竹、芭

花の白くは雪の如し

梅、桜、橘、松、竹、芭

花の白くは雪の如し

梅、桜、橘、松、竹、芭



鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

鳥

花

花

花

花

花

花

花

花

花



鳥

さき

たふ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

花

有田 廣

花子

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ

さきほのうらなひのうらなひ



<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>

上卷

<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>
<p> </p>	<p> </p>

下卷



南州  
 新和  
 茶州  
 友雅  
 松亭  
 松亭  
 松亭  
 松亭  
 松亭  
 松亭

花  
 日

白如

相戸  
 相波  
 高和  
 松曉  
 松亭  
 松亭  
 松亭  
 松亭  
 松亭  
 松亭

花  
 日

松亭







る

之直

あはれなるはつとす

のちかたはつとす

あはれなるはつとす

あはれなるはつとす

あはれなるはつとす

あはれなるはつとす

た

記之#

三

たつとす

たつとす

たつとす

たつとす

たつとす

たつとす















鳥 白紙

巴. 乙

鳥の白紙

鳥の白紙

鳥の白紙

鳥の白紙

鳥の白紙

鳥の白紙

花

白紙

二借

花の白紙

花の白紙

花の白紙

花の白紙

花の白紙

花の白紙



かきつばた

う

う

かきつばたのうらみ

かきつばたのうらみ

う

かきつばたのうらみ

かきつばた

う

かきつばたのうらみ

う

かきつばたのうらみ

う

かきつばたのうらみ

う

う

かきつばた

う

かきつばたのうらみ

かきつばたのうらみ

う

かきつばたのうらみ

う

かきつばたのうらみ

う

かきつばたのうらみ

う

かきつばたのうらみ

う

三



き

三條

ぬねぬねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

花 四

三條

ぬねぬねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね

ねねねねねねねねねねねね



さ ぬき 草

草

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

ふ 田

八

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに

あまのこゝろに



鳥

西條

鳥

~~~~~

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥

花

~~~~~

（京車）

鳥

~~~~~

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥

~~~~~

鳥







鳥

田原 小島

業平

夕月くさむらぎの宿  
 雀人のまはるき宿  
 宿舎のまはるき宿  
 夕月くさむらぎの宿  
 雀人のまはるき宿  
 宿舎のまはるき宿  
 夕月くさむらぎの宿  
 雀人のまはるき宿  
 宿舎のまはるき宿

花

善山 城西

長原

夕月くさむらぎの宿  
 雀人のまはるき宿  
 宿舎のまはるき宿  
 夕月くさむらぎの宿  
 雀人のまはるき宿  
 宿舎のまはるき宿  
 夕月くさむらぎの宿  
 雀人のまはるき宿  
 宿舎のまはるき宿



田舎

き

馬鹿

家もや極小漢の夕日美

朝の光もいと重くもくもく

夕もくもく左も新し右も古く

下もくもく上も月もくもく

空もくもく水もくもく山もくもく

風もくもく土もくもく草もくもく

花

白

声

おのれもあつたあつたあつたあつた

男の情もあつたあつたあつた

女も情もあつたあつたあつたあつた

情もあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた

あつたあつたあつたあつたあつたあつた











鳥 月橋東

湖心

朝花の影をうけてはるかなる月影

花の影をうけてはるかなる月影

月影をうけてはるかなる月影

花の影をうけてはるかなる月影

朝花の影をうけてはるかなる月影

花の影をうけてはるかなる月影

花

伊勢物語

巴水

夕べの月影をうけてはるかなる月影

花の影をうけてはるかなる月影

朝花の影をうけてはるかなる月影

花の影をうけてはるかなる月影

夕べの月影をうけてはるかなる月影

花の影をうけてはるかなる月影



鳥 有白唐

許

鳥の鳴く声はさかづき

丹波の小鳥はさかづき

鳥居の籠りてはさかづき

さかづき鳥のさかづき

鳥の鳴く声はさかづき

鳥の鳴く声はさかづき

花

花の香

河

花の香はさかづき

花の香はさかづき

花の香はさかづき

花の香はさかづき

花の香はさかづき

花の香はさかづき

乃枝

乃枝

乃枝

乃枝

乃枝







一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

九

...

...

一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

...

...

...



花のうらみ

うら

うら

花のうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

花 日記

うら

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ

うらみはうらみはうらみはうらみ







第一目もあらはれ松の平陰より  
松のまきしきさきりん  
ふりくるとまよふ松のまきの有  
顔ゆるゆる松葉は秋

二巻畢

花

教をくはる松——ふさく

中書作  
三意林

もまふ松もぬきまきり  
松

松入のあら新松をまきく  
ふ葉

ちよりと松のまき  
松

松をまきららの月をまきく  
松

まき松のまき  
松

松



る 日さき布

海し舟のりるふらふらと

頭水

新まじりのらふらふら

花さき

くまふらふらのほほ

百他

舟のりるふらふらと

花さき

舟のりるふらふらと

花さき

舟のりるふらふらと

花さき

花

産

水産

舟のりるふらふらと

舟のりるふらふらと

花さき

舟のりるふらふらと

花さき

舟のりるふらふらと

花さき

舟のりるふらふらと

舟のりるふらふらと

花



鳥 ぶん 草

西志

むつりく 物 4 年 1 月 2 日

まき 軒 茶 店 の 土 垣 等

あまのり ねんね ぶん せん せ

一 二 三 横 中 二 三 中 中 松 中

はらし せん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

花

陽中

ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

千 金 の ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ふ ち の ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

い ち ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん ねん

九



鳥 白鳥

従ふ旅立ちもあつた 舞の舞

鳥

唯し流石の鳥はさくしん

鳥

よこしと節をたのむかゝりて

二鳥

女より言ふもあつた

鳥

お金の耳もあつた

鳥

お金の耳もあつた

鳥

花

お別 花

後

百山

お金の耳もあつた

お金の耳もあつた

鳥

お金の耳もあつた

鳥

お金の耳もあつた

鳥

お金の耳もあつた

鳥

お金の耳もあつた

鳥



鳥

鳥 小松

松那

蒼海と云ふ水もさや海も

珠洲の由縁は晴て澄く 地も

小まの地はよ月お 鳥

若くは新の山 鳥

無くは中若山は 鳥

ありは松のさるる 鳥

と 無生 ちま

松名はつり地もほろし鳥

初は好世し新らよき比 鳥

石持のまよさるる人し鳥

せしは 掃也とみまのト 鳥

月をれし平月の新若よつて鳥

只中つたらの海もあつて 鳥



も

Enon

も

いふやうな事だとはいふが

此處の事だとはいふが

月夜に月があつたとき

あつたときは新しい橋

のうしろの橋のあたりに

あつたときはあつた

橋

川

洞

一

喜

も

青田

永板の橋をとり

あつたときはあつた

いふやうな事だとはいふが

七

七



き

吾方海くても或も也  
甲午年

海はくもいぢりくき  
知くも海名は月の  
甲午年

あま

も

行もあはきふのた  
あま

はあはあ  
甲午年

あまあ  
甲午年



る

凡そ

大彫しをさかすの  
 月と清く空をのりて  
 舟もまよひの海に  
 きこゆちく人と入るの  
 さらうと河の内に  
 橋しそよぎはる

死

さる

子孫

是のちと恒と祝けい

五斗の浮世や押えはる

月と清く空をのりて

舟もまよひの海に

きこゆちく人と入るの

さらうと河の内に

廿五











き

の指さす手あし流の指さす

の指さす手あし流の指さす

指さす手あし流の指さす

の指さす手あし流の指さす

あし流の指さす手あし流

あし流の指さす手あし流

指さす

あし流

あし流の指さす手あし流

あし流の指さす手あし流

あし流の指さす手あし流

あし流の指さす手あし流

あし流の指さす手あし流

あし流の指さす手あし流

あし流



Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

Handwritten text in cursive script, possibly a signature or a short note.

志のたふさな集

Main body of handwritten text in cursive script, consisting of several lines of prose or poetry.



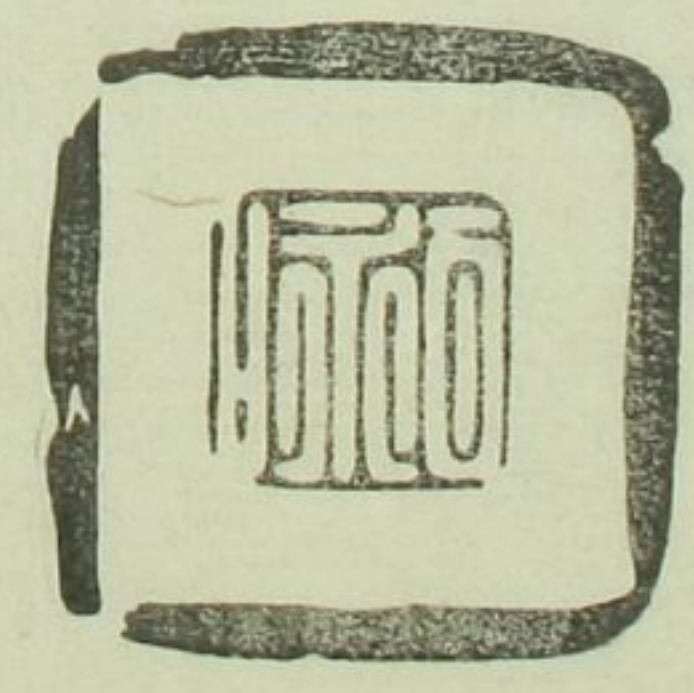
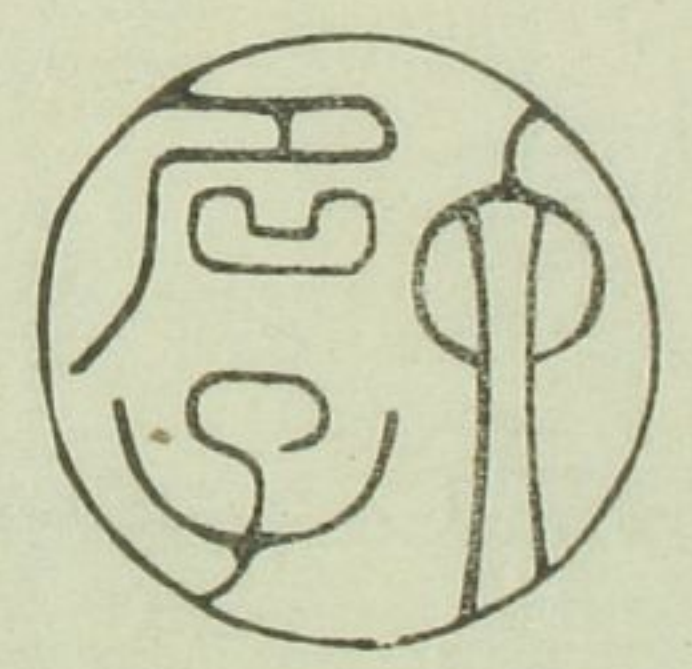




寒中かゝるくそふ門風のまじき  
海ふ象虫測れ報恩あかきうき

天保十四癸卯十月

維文芝園



蕉門書林

皇都寺町通二條

橘屋治兵衛梓



